

「きいて まねして はなして」の使い方

■テキストの構成と使い方

このテキストは、パート1～3の3部構成で30の「ユニット」と「スピーチしましょう」でできています。

パート1は、パート2の練習に入る前の基本練習をします。パート2は、語りを聞いて、まねして、最後には自分のことが話せるようになることを目標に進めます。パート3は身近な場面での会話のやり取りを練習します。そして、最後に、習ったことをたくさん使ってスピーチをします。

1ユニットの学習時間の目安は120分です。ユニット1から順番通りに進めてください。あくまでも目安ですので、地域、日本語学習支援者（以下、支援者）、学習者の状況に合わせて、自由に使ってみましょう。

■パート1

あいさつ、数字、時間、カレンダー、お金の単位などが練習できます。

活動を通してパート2へのウォーミングアップをします。

*pp.3～5の「教室のことば」「ひらがな・カタカナ」は毎回練習してください。

■パート2 活動の手順

パート2はユニット毎のイラスト（挟み込み冊子）を使って活動します。アイコン下の□には、それぞれの活動が終わったら、学習者にチェックを入れてもらいましょう。


1) 語り手のイラストを示し、トピックは何か、だれの話かを伝えます。


2) 【ことば】… 語文の中に出てくる大切なことばを載せています。



支援者が発音し、イラストやジェスチャー、翻訳などで意味を示します。

学習者には、自分で意味を調べておくように言うか、その場でテキストに意味を書き込むように言います。そして、支援者が発音したことばを聞いて、まねして、発音してもらいます。5分程度を目安にしてください。

3) 【語文】… 各ユニットの登場人物の語りの部分です。

①  学習者にイラストを見せながら、語文をゆっくり読みます。意味が伝わるように、絵を指さし、ジェスチャーも交え1文ずつ学習者の理解を確認しながら読んでください。意味がわかるまで、2, 3回繰り返してもいいです。

②  語文の意味がわかったら、支援者はイラストを見せながら1文ずつ発音し、その後に、学習者にまねして、発音してもらいます。ここでは聞いた音を口から出せるように練習するので、文字は読みません。できるだけ、1文が滑らかに言えるまで、何度も何度も繰り返し言う練習をします。文が長くて言えない場合は、「、」や区切りのいいところで切って練習をしてください。3回、4回、5回と繰り返し、滑らかさが出てくるまで根気よくやりましょう。

- ③  次は、学習者が、語りをすべて音読します。まずは、文字を読みます。文字がまだ読めない場合は、支援者が先に読んで、学習者には文字を目で追いながら読んでもらってください。すらすら言えるようになるまで、繰り返し練習します。
- ④  最後は、イラストを全部示して、学習者に言ってもらいます。「聞いて」「まねして」何度も言うという①～③の練習を基に、今度はイラストだけを手掛かりに、語りをすべて自分で話してみる活動です。少し単語が抜けてしまっても、意味が通じれば大丈夫です。

4) 【Q&A】

「語り文」の内容について質問します。テキストには、質問も答えも書いてあります。学習者同士がペアで質問し、答える練習をします。疑問詞の意味や疑問文への答え方を学ぶことができます。ペア練習が終わったら、支援者が質問し、学習者にテキストを見ずに答えてもらいます。Q&Aの答えは一例です。自然なコミュニケーションになるよう、質問に対する答えだけでなく、さらに付け加えて答えているものもあります。

5) 【質問に答えましょう】

学習者自身のことを話す練習をします。支援者はテキストの質問を「やさしい日本語」で学習者に伝えます。学習者が言葉に詰まってしまう場合は、支援者が手助けをしてください。一問一答のやり取りにならないよう、学習者とおしゃべりを楽しんでください。学習者の話すことに興味を示して、「もっと話したい」という意欲を引き出しましょう。

6) 【話しましょう・書きましょう】

【質問に答えましょう】で話したことを学習者が自分自身の「語り」として話す活動です。支援者や他の学習者に聞いてもらいます。また、宿題として書いてきてもらってもいいです。

7) 【ちょっと文法】

「語り文」の中に出てきた文のパターン(文型)を整理することができます。文型が視覚的にわかるように、示してあります。

■パート3

ここでは、場面会話を練習します。支援者が会話を演じて、学習者に意味を伝えます。できるだけ、自然な会話のやり取りができるように、役割練習をします。その際には「学習者」の役割は学習者が、その他の役割は支援者が担当してください。会話に必要な小道具を準備するなどして、実際のコミュニケーションに近い練習をしてください。

■スピーチしましょう

テキスト最後の練習です。習ったことをフル活用して、スピーチを練習します。この活動は発表会や修了式など、実際に大勢の人の前で話す機会を設けて、学習者が「わたしは日本語が話せるんだ」という自信につなげてください。

※大阪府教育庁市町村教育室地域振興課 HP から次のものをダウンロードすることができます。

- ・大きいサイズのイラスト
- ・もくじ、パート2「語り文」のローマ字版

(URL→<https://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/osyaberi/manesite.html>)

